

# 吟剣詩薈

g i n k e n s h i b u

秋篠宮皇嗣妃総裁・  
恩賜財団母子愛育会奉賛

令和5年度

全国名流吟剣詩舞道大会

二度の中止を乗り越え

〃火の国〃熊本で開催

新春特別対談

日本財団 笹川陽平会長

日本吟剣詩舞振興会 沼崎富会長



表紙の詩

佳賓好主 佐藤一齋

月は梅花を訪うて好主と為し

梅は月影を邀えて佳賓と作す

佳賓好主両つながら双絶

管領す黄昏一刻の春

秋篠宮皇嗣妃総裁・恩賜財団母子愛育会奉賛  
令和5年度 全国名流吟剣詩舞道大会

# 一度の中止を乗り越え

# “火の国”熊本で開催

全国の名だたる流派の宗家・会長が集い、その熟練の技を披露するという  
ことから始まった全国名流吟剣詩舞道大会。「名流大会」の通称で毎年  
各地持ち回りにて開催されてきましたが、平成30年度に愛知県で開催さ  
れて以来、コロナ禍などにより相次いで延期中止に。このほど令和2年、3  
年に開催予定だった熊本にて5年ぶりに開催、宗家・会長に加えて、全国コ  
ンクール優勝者、スパーチームや少壮吟士など、最高峰の吟と舞が展開さ  
れる華やかな舞台が繰り広げられ、熊本城ホールは久しぶりの名流大会に  
歓喜の渦に包まれました。

任意団体の全吟倶楽部主催の大  
会を引き継ぐ形で、昭和47(197  
2)年に東京・九段会館で開催され  
たのを皮切りに、全国主要都市の持ち  
回りで行われてきた全国名流吟剣  
詩舞道大会(名流大会)。その名の通  
り、日本全国の名流派の宗家・会長  
が円熟した吟と舞を披露するのを  
目的とするとともに、毎年こどもの

日に行われてきたことから、地元  
の幼少青年が日頃の練習の成果を発  
表する場ともなってきました。  
しかし平成30(2018)年に愛  
知県刈谷市で開催されたのを最後に、  
コロナ禍などで実施が見合わせられ  
ることに。令和2(2020)年5月  
5日に熊本で開催される予定でした  
がコロナ禍により延期、翌年5月9

日に新装の熊本城ホールで開催され  
ることになりましたが、こちらも中止。  
しかし地元の名流大会への意気込み  
は消えず、今年度に三度目の正直を  
迎えることになりました。

第三部の後の式典では(第一部)  
第三部は8ページ参照)、沼崎富会  
長が「大会関係各位におかれまして

は、コロナ禍によるたび重なる障害  
を乗り越え、今日までご準備いただ  
きました皆様方のご労苦に対し、  
心より感謝申し上げます」と挨拶  
します。  
そして第四部は2千人近い観客お  
待ちかねの企画構成番組「詩歌でつ  
づる鎮西の旅」。熊本から沖縄まで  
九州地区を所縁の詩歌で巡る構成  
で、次々と繰り広げられる吟と舞の  
共演に熊本城ホールは感動の拍手  
と喝采で埋め尽くされました。




第二部の1番、熊本県総連女子による『水前寺成趣園』(落合素堂)の合吟



第二部の2番、熊本県総連男子による『阿蘇山』(安達漢城)の合吟

向山侑吟熊本県吟剣詩舞道総連盟理事長  
**無事に終わって心の中は青空です**



「盛況のうちに終わって、心の中は青空です(笑)。令和2年、3年と続けて中止になり、もうダメかとも思いましたが、九州地区連絡協議会の藤本誠堂議長以下皆さんのご協力の賜物と感謝しています。入場券も多くの方に購入いただいた、熊本城ホールの1階がほぼ埋まったのはありがたい限りです。八代輝雲先生に書いていただいた企画構成番組も無駄になることなく、少壮吟士や全国の剣詩舞流派の方々により素晴らしい舞台に仕上げただけで、大変うれしく思っております」

令和2年当時は九州地区連絡協議長であった向山侑吟理事長

大会のフィナーレ、第四部の企画構成番組「詩歌でつづる鎮西の旅」出演者が全員登壇し、大会旗が向山侑吟熊本県吟剣詩舞道総連盟理事長から沼崎富日本吟剣詩舞振興会会長に返還された

秋篠宮皇嗣妃総裁・恩賜財団母子愛育会奉賛  
**令和五年度 全国名流吟剣詩舞道大会**  
主催 公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

日時：令和5年11月19日(日)  
場所：熊本県・熊本城ホール  
主催：公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会  
後援：文化庁、熊本県、熊本県教育委員会、熊本市、  
熊本市教育委員会、熊本県文化協会、他

上：大会は令和3年度の予定と同じく熊本城ホールで開催。同ホールのある複合施設「SAKURA MACHI Kumamoto」の外観  
下：加藤清正が築城して以来、熊本のシンボルとなっている熊本城。2016年の熊本地震で大きな被害を受けたが、修復なった天守閣は再び公開されている





『川中島の戦い』では柴田昭煌さんが上杉謙信、多田正千衣さんが武田信玄に扮して激闘

# 久々の大舞台！ 8年目のスーパーチーム



最後の演目『光芒』では吟詠と剣詩舞スーパーチームによる華麗なコラボレーションが展開



コロナ禍以降、大きな活動がなかったスーパーチームですが、今回はオープニングでまず『PASSION～火焰の如く～』。8年前に剣詩舞スーパーチームが武道館でデビューを飾ったときの記念すべき楽曲で、さらに完成された群舞を見せます。第一部終了時には吟詠スーパーチームが振り付きの『富士山』。第二部終了時には吟詠・剣詩舞スーパーチームによる『川中島の戦い』。第50回の武道館大会で吟詠と剣詩舞がはじめてコラボレーションしたときの名作です。そして第三部終了時には剣詩舞の『Fantasy』、吟詠の『初春の令月』、吟詠・剣詩舞のコラボによる『光芒』と三曲続けての披露。複雑な剣詩舞のフォーメーション、振りやハモリを組み込んだ吟詠という画期的なスーパーチームのパフォーマンスは、ますますパワーアップして熊本城の観客を圧倒しました。

**多田正千衣さん、柴田昭煌さんが卒業！**  
 青年をターゲットにしたスーパーチームは、35歳になると卒業。今回は詩舞の多田正千衣さんと剣舞の柴田昭煌さんが卒業を迎え、チームとしての演技をすべて終了した後、1階席入口の広場で卒業式が行われました。大田直樹事務局長の挨拶に続き、早淵鯉将校長から二人に卒業証書が手渡され、8年間に及ぶスーパーチームメンバーとしての活動に終止符を打ちました。

## 卒業する多田、柴田メンバーにインタビュー

- ◎ 卒業を迎えてのお気持ちを聞かせてください。  
 多田「もうやりきった感じです。みんなすごいできる子たちなんで…(涙)」  
 柴田「僕もやりきったという思いで、皆さんへの感謝しかありません。いいメンバーに恵まれました」
- ◎ とくに印象に残っていることは？  
 多田「時間が30分くらいもらえて構成吟ができたことはすごくありがたかったですね」  
 柴田「令和元年の5日間の公演は非常にいい経験をさせていただきました」
- ◎ これからはどんな活動をしていきたいですか？  
 多田「コロナ禍で広報活動があまりできなかったので卒業してもやっていきたいです」  
 柴田「肅々と活動し、次は一般一部で頑張りたいです(笑)」
- ◎ 後輩たち、これからスーパーチームを目指す人たちに何かアドバイスはありますか？  
 多田「とにかく楽しくやってほしいですね。私もすごく楽しんでやってきたので」  
 柴田「吟剣詩舞の発展というのが僕らの使命だと思うので、これからもしっかり良い舞台をして、スーパーチームを目指す人が一人でも増えればと思います」



## 早淵鯉将スーパーチーム校長 寂しいけどまた次の人たちに頑張ってもらいたいですね

「今回はスーパーチームにとってほぼ全曲と言えるくらい出番が多くて大変でしたけど、それだけにやりがいがありました。卒業する二人は軸になってもらいましたが、こういう立派な大会で卒業式を迎えられたことは良かったと思います。一期生は優秀な人が多くていなくなるのは寂しいですが、また次の者が頑張ってくれればいいですね」



卒業する多田正千衣さんに卒業証書を渡す早淵鯉将スーパーチーム校長



第二部3番、熊本県の幼少年による『熊本城』(原雨城)。10人の吟詠により、5人が舞った。令和三年度吟詠コンクール少年の部優勝の山中七海さんも参加(後列中央)

第二部49番、池田嶺煌、前山紫峰少壮吟士OBの吟により、石田翔祥宗家以下大分の小天真道流の9人が『児島高德桜樹に書するの図に題す』(斎藤監物)を舞う



第二部50番、藤原光伶子、山中鈴鷲少壮吟士OBの詠う『月夜荒城の曲を聞く』(水野豊州)で、藤野昭錬館長以下福岡の日本壮心流昭武館の8人が詩舞を披露

**第一、二、三部 各コンクール優勝・入選者、各流宗家・会長などの吟詠と剣詩舞**  
 大会は剣詩舞スーパーチームのターゲット。徳田寿風副会長の開会のことばに続き、第一部は今年3月に開催された最後の全国少壮吟詠家審査コンクール(少壮コンクール)入選者による吟詠。1回入選の5人と、3回入選を果たして少壮吟士候補となった4人が、緊張の少壮コンクールの舞台と違つて、よりリラックスした



第二部では全国の宗家・会長が独吟。『爾靈山』(乃木希典)を詠う九州地区連絡協議会藤本誠堂議長(右)と、『菊花』(白居易)を詠う徳田寿風財団副会長

て吟じました。  
 第二部は熊本県吟剣詩舞道総連盟の女子と男子による合吟と幼年の吟と舞、各流宗家・会長が得意の吟を、さらに九州の剣詩舞流派が群舞を披露して、名流大会にふさわしい舞台を繰り広げます。  
 第三部は全国コンクール優勝者による吟と舞。令和四年度優勝者の10人と、令和五年度優勝者2人がコンクールで行った吟詠および剣詩舞を晴れ舞台で披露しました。また各部の最後にスーパーチームが、これまでに鍛え上げてきた技で、華麗な吟と舞を展開して喝采を浴びました(左ページ参照)。

## 優勝者のパフォーマンス

**雅号と本名で組詩を披露**  
 三重県の綿谷未由子さんは、令和四年度の全国吟詠コンクール一般一部で優勝、同じく少壮コンクールで入選を果たし、第一部では雅号の綿谷芳由名義で『越中覧古』(写真左)、第三部では本名で『蘇台覧古』(写真右)と、李白の組詩的な二曲を披露。着物も変えて登場した未由子さんは「『蘇台覧古』は自分で選びましたが、『越中覧古』は少壮コンクールで偶然当たったのでびっくりしています」とのこと。



**親子で優勝の鈴木ファミリー**  
 愛知県の鈴木宏実さんと嗣人くんの母子は、令和四年度の全国剣詩舞コンクールの一般一部と幼年の部で同時優勝。「たくさんのお客さんの前で緊張しましたが、名流大会という大きな舞台で踊ることができてすごくうれしいです」(宏実さん)と感激の声。写真左端は次男の藤大(ふじと)くん、右端は長女の悠加(ほのか)さん。宏実さんは自分の稽古以外に仕事に子育てで、後進の指導にと忙しい日々を送っている。



企画構成番組

「詩歌でつづる鎮西の旅」

大会の最後を飾る企画構成番組は、開催地熊本から沖縄まで九州地区8県をぐるりと回る「鎮西の旅」。各地にまつわる詩歌を、青研・少壮吟士の最高峰の吟詠家と、全国の名流剣舞社中の舞でつづります。その絢爛豪華な舞台は、観客のみならず出演者を含めた熊本城ホールすべての人を魅了しました。

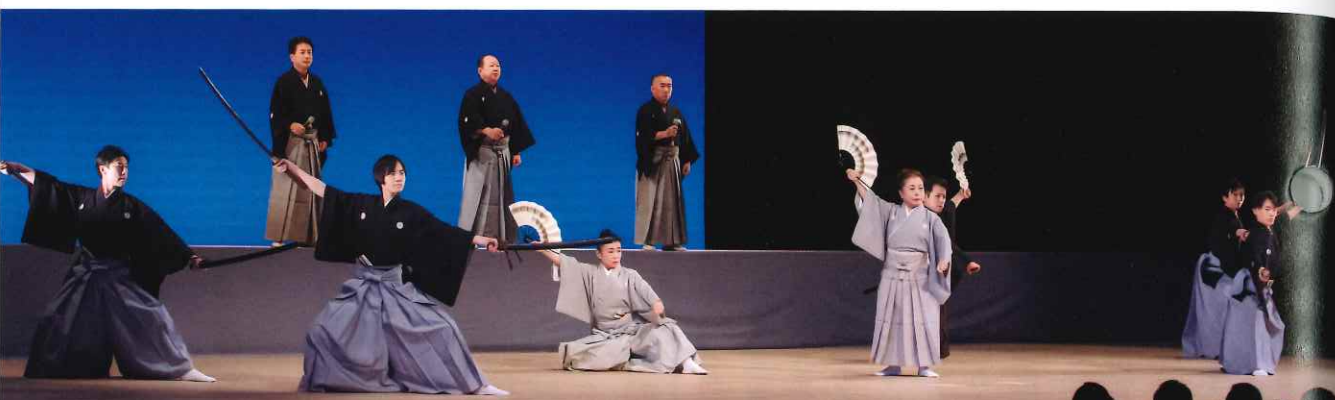
企画構成と脚本を担当した八代輝霊顧問



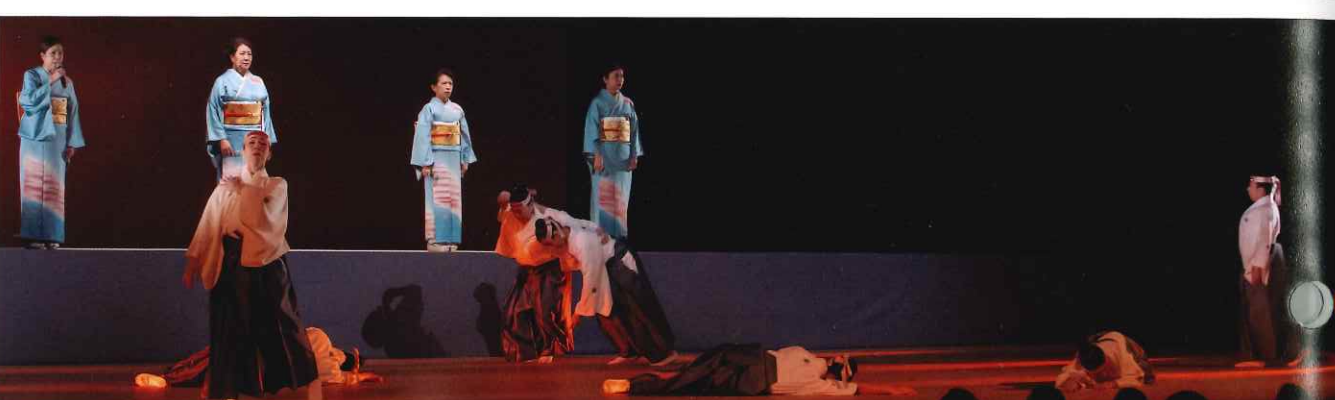
「令和2年に名流大会が熊本で開催されるということで、かつて鎮西と言われた九州各県を巡る構成番組を企画しました。内容はその時作ったままです。加藤清正や西郷隆盛などかつて活躍した九州所縁の人々の漢詩、和歌等を集めて、沖縄を含めて九州を精一杯描こうと思いました。皆さんに喜んでいただけて大変うれしいです」



福岡県『黒田長政』(逸名) 吟:猪木原凧泉、加藤契琵琶 舞:多田正晃社中 豊臣秀吉の軍師・黒田官兵衛の嫡男で、福岡藩初代藩主の黒田長政を詠った絶句により、大日本正義流の5人が勇壮に剣舞



鹿児島県『短歌・我が胸の〜偶感』(平野国臣 西郷南洲) 吟:前田卓壺、佐々木秀景、巽吟城 舞:小野光翠扇社中 幕末の志士・平野国臣と西郷南洲の詩歌を男性吟士が詠い、光翠扇流の7人が舞う



沖縄県『姫百合の塔』(唐岩泰堂) 吟:八代光晃子、中武玲星、塩澤宗鳳、山岡桜山 舞:杉浦英容社中 太平洋戦争末期、沖縄の「ひめゆり学徒隊」の悲劇を女性吟士と天辰神容流の女性7人で表現



終章『春望』(杜甫) 吟:現役・OB少壮吟士全員 最後は唐の詩人・杜甫の名詩を、構成番組に出演したすべての現役・OB少壮吟士が揃いの衣装を着て合吟。男性吟士と女性吟士による美しいハーモニーを聴かせた



熊本県『加藤清正公(抜粋)』(松口月城) 吟:野中秀宗、岩永優岳、関口麗煌、中野祥理 舞:入倉昭星社中 熊本城を築いた加藤清正公を讃える漢詩。日本社心流の入倉昭星宗家が槍を持って舞う

長崎県『天草洋に泊す』(頼山陽) 吟:河野鶴聲、和田彩楓 舞:藤上翔山社中 青研吟士の二人が迫力あふれる天草灘の景観を吟じ、藤上翔山宗家を中心とした菊水流の5人が詩舞で描写した



福岡県『名槍日本号(今様入り)』(松口月城) 吟:向山侑真、向山侑珠 舞:早淵鯉將社中 今様の『黒田節』が入ったおなじみの曲。早淵流・早淵鯉將宗家の十八番で、奇しくも入倉宗家と槍・槍対決となった

